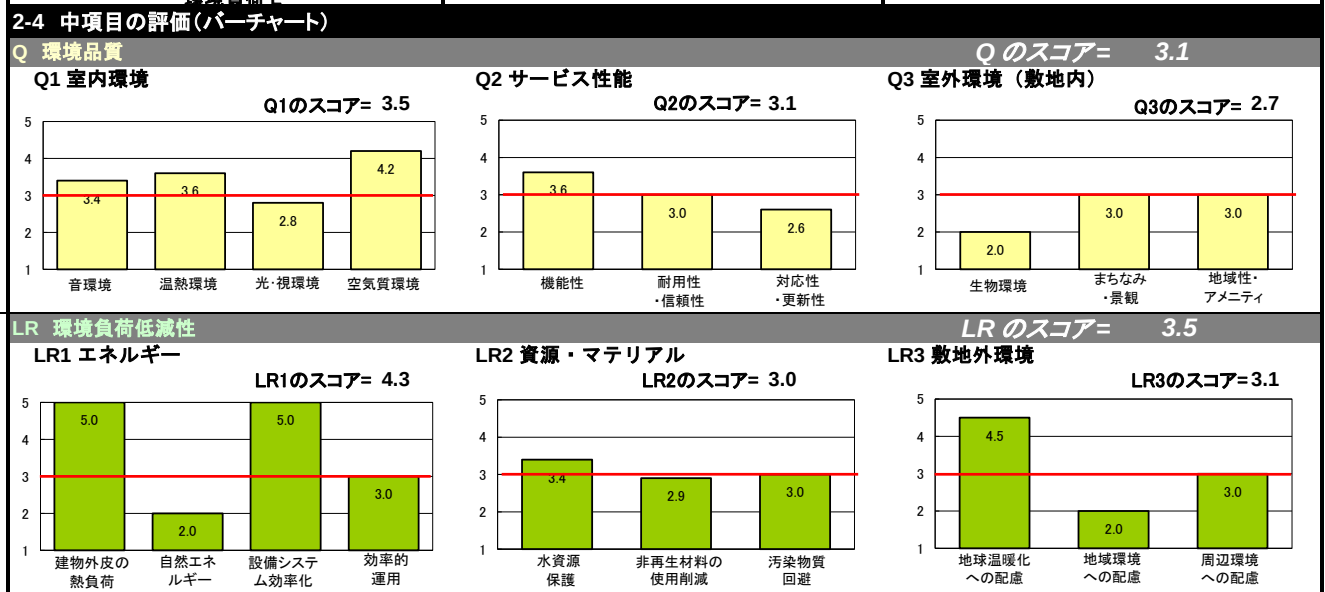
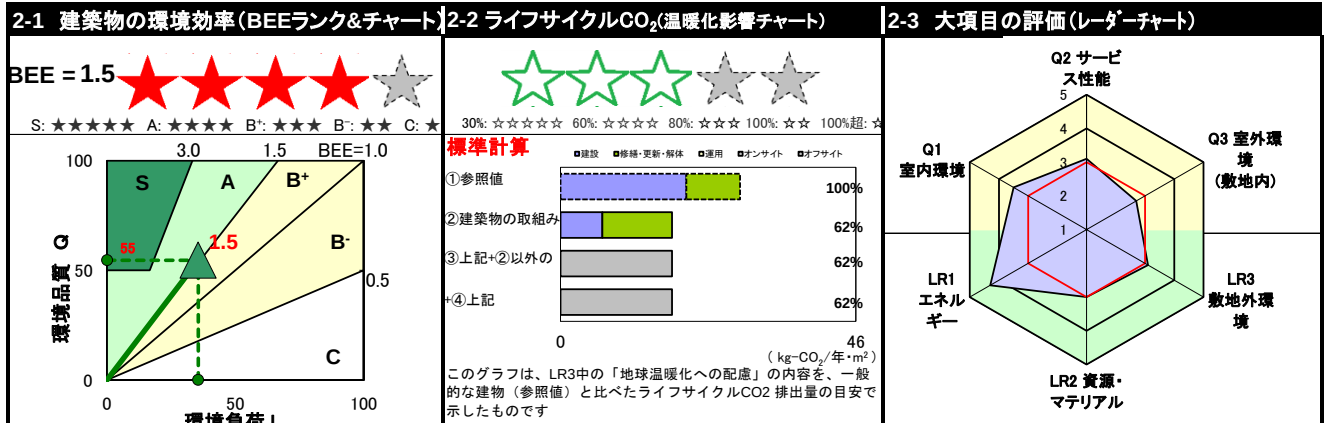


CASBEE®名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築性能評価2016年版、省エネルギー性能評価2016年版、省資源性能評価2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)昭和区南山町計画	階数	地上3F、地下1F
建設地	名古屋市昭和区南山町13番8	構造	RC造
用途地域	第一種低層住居専用地域、第一種風致地区、宅地造成工事規制区域地	平均居住人員	60 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	
竣工年	2025年9月 予定	評価の実施日	2024年4月1日
敷地面積	2,698 m ²	作成者	
建築面積	806 m ²	確認日	2024年4月1日
延床面積	3,237 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合 風致地区の景観を最大限に活用した緑あふれる配置計画と、丘陵の高低差をいかして建物の見かけ高さを軽減し、周辺環境に調和した街並みをつくることを目指す		
Q1 室内環境 Low-eガラスの採用や、一部居室への高効率エアコンの実装など高い省エネ性能を確保する	Q2 サービス性能 日本住宅性能評価基準「3-1劣化等級」における等級3を確保する	Q3 室外環境(敷地内) 道路や隣地境界への緑地確保や既存緑地を保存する植栽計画とすることで、景観に配慮した
LR1 エネルギー 低炭素建築物認定取得を目標に、高い断熱性能を有し、一次エネルギー削減のための設備計画を行った	LR2 資源・マテリアル 節水こまや節水型便器を採用し、環境負荷低減に努めた	LR3 敷地外環境 ディスプレイを設け、生ごみの軽減に努めた

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)昭和区南山町計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.0
LR1	エネルギー	4.3	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	1.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.0
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.0



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.0



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。